

Pink Ribbon Festival in Tsukuba



つくばピンクリボンフェスティバル

2005年4月2日(土)

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/pinkribbon/>

報告書

講演

Breast Cancer Awareness

乳がんを知ろう

乳がんクイズ

乳がん検診

ウォーキング

テニスクリニック

バルーンパフォーマンス

[特設]患者の会のコーナー・展示ブース

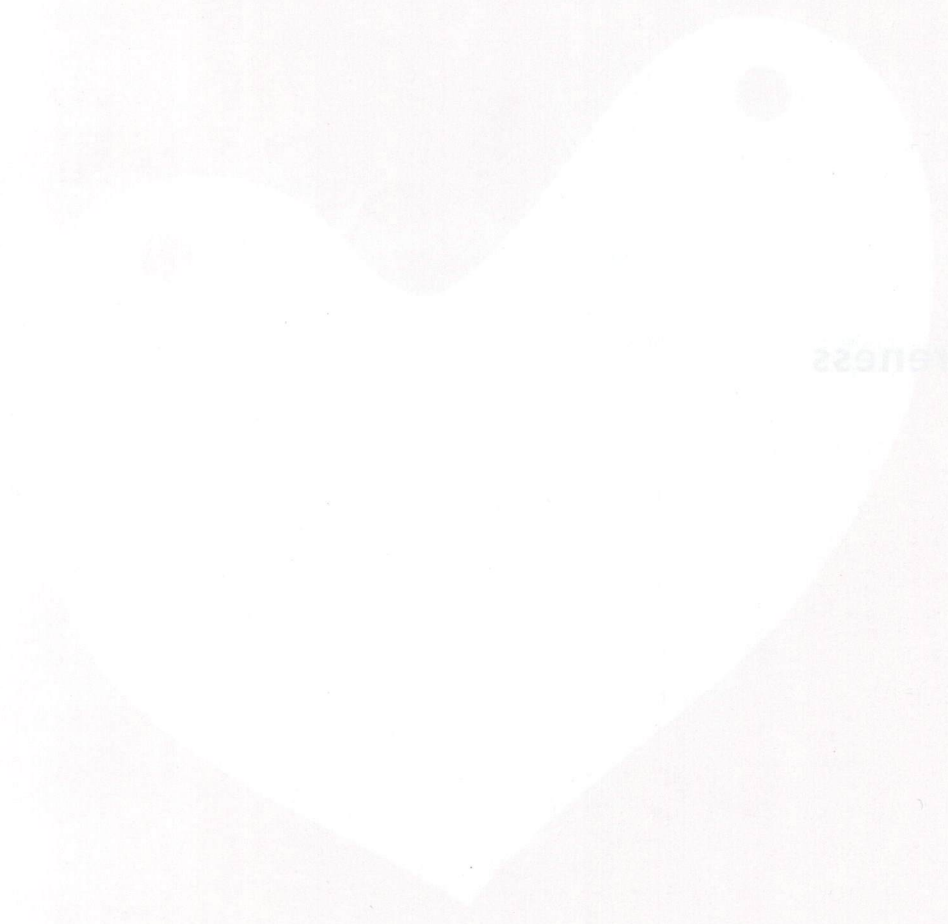
主催 つくばピンクリボン実行委員会

実行委員長 植野映 筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科

副委員長 東野英利子 筑波大学臨床医学系放射線科

共催 筑波大学/茨城県/つくば市/茨城県医師会/
乳房健康研究会/茨城乳腺疾患研究会/
筑波学院大学

後援 つくば乳癌ネットワーク/牛尾病院/
つくば保健所



Copyright 2005 Pink Ribbon Festival in Tsukuba. All rights reserved.

つくばピンクリボンの会

Photo: S. SAITOH
Layout: J. YAGI



感謝の言葉

つくばピンクリボンフェスティバルの成功おめでとうございます。

皆様方のすばらしい積極的なボランティア精神の統合が晴天のような達成感を築き上げました。今ではさすががしい気持ちです。ありがとうございました。

つくばピンクリボンフェスティバル
実行委員長 植野 映



総括

昨年、提出された米国国立がんセンター（National Cancer Institute）の疫学調査結果（Surveillance, Epidemiology, and End Results）では、乳がんの発生は増加しているものの乳がん死は減少傾向にあることが示された。この減少については乳がん検診の結果という説と新しい抗がん剤が開発されたためという説と両論ある。しかしながら、日本においては、乳がん死の減少は認められていないことから、乳がん検診の行き届いた結果としたほうが妥当と考えられた。

茨城県における乳がん検診は、茨城県保健福祉部保健予防課の指導により整備され、本システムは全国的にも高い評価を受けてきた。ところが、昨年10月に報告された茨城県の乳がん検診受診率は、9%（全国平均10%）と低く、乳がん部会においても問題点として強く受け止められ、なんらかの啓発運動の必要性があるとのコンセンサスが得られた。おりしも、日本乳癌検診学会において特別教育講演「わが国の乳癌検診の歴史と展望」が富永祐民先生司会にて執り行われ、その中でも日本における検診受診率の低さが指摘された。その学会上で、検診受診率の向上を目指した行事を執り行うことを東野英利子氏、太田代紀子氏とともに決意し、日程を2005年4月2日とした。福岡ピンクリボンを運営された田中先生にもご相談。その運営の仕方をご教示いただき、「ウォーク+講演会」として骨子が固まった。



その後、講演会の演者を依頼するに当たり、先生方の実力、お人柄、乳癌診療にかける情熱の観点から、各講師の先生方を選ばせていただいた。これらの先生方は講演料なしのボランティア活動という申し出にもかかわらず、即座に講演を快く引き受けてくださった。この時点で、予算の不安は残るものの会の見通しは整ったと判断し、各有識者、茨城県総合がん対策担当者、患者、医療従事者に委員の依頼を行ない、実行委員会を立ち上げた。実行委員会には、発起人以外に甲斐美津江氏、坂井朋夫氏、原尚人氏、坪井光子氏、石山マチ子氏、春日晴夫氏、森島勇氏、鯨岡結賀氏、岡田益吉・周子夫妻、萩谷雅智氏、松浦芙実子氏、小田陽子氏、椎名毅氏、野外イベントに詳しい上野修氏、自称イベント屋の八木淳子氏らが参加することとなった。

第1回の実行委員は11月28日に筑波大学附属病院にて開催した。実行委員長、副委員長、各企画の担当責任者、母体となる団体、共催団体を決定し、活発な討論が行なわれた。その結果、企画としてテニス、乳がん検診が新たに加わった。ウォークは東野英利子氏と上野修氏、講演は植野映、テニスクリニックは原尚人氏、乳がん検診は森島勇氏、鯨岡結賀氏、甲斐美津江氏、坂井朋夫氏、光畑桂子氏、T-シャツ作成は石山マチ子氏と太田代紀子氏、財務は坪井光子氏、事務局は松浦芙実子氏、小田陽子氏、八木淳子氏が担当することとなった。大学、県、市との共催に関しては、年度後半の予算の獲得は不可能なため人員を派遣していただくことで共催の形をとることとした。

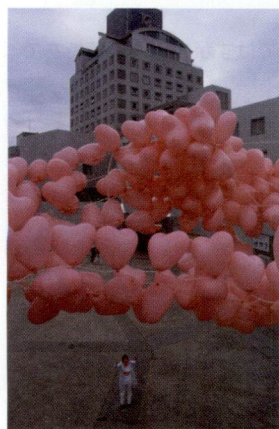
その後、広報活動を行なうに当たり、デザイン担当が必要と考え、筑波大学芸術学系名誉教授山本文彦氏に相談し、当講師の田中佐代子氏をご紹介いただいた。また、ウォークを企画するに当たり、体育学系教授吉田氏より助教鍋倉賢治氏を紹介していただいた。両氏には多忙であったにもかかわらず最後まで精力的にかかわっていただいた。

会場は利便性からノバホールが最適と考えられたが、既にピアノ教室の発表会が企画されており、断念した。次につくば国際会議場（エポカル）を検討したが、ここも先約があり、キャンセル待ちとなった。一応、筑波大学の大学会館の講堂を確保した。

第2回実行委員会からは田中佐代子氏も加わり、また、島田菜穂子氏も委員として参加した。島田菜穂子氏は、今までのピ



ンクリボンの経験から数多くの情報と企画についてのアドバイスを提供してくれた。大会の名称も Tsukuba Pink Ribbon Festival とする案を提出し、皆の賛同を得た。田中佐代子氏はポスター、パンフレット、プログラム、ウォーク完歩賞、コンサートプログラム等のデザインを担当した。この副産物として田中氏はこれらのデザインをセットにして Tokyo Art Directors Club 年鑑に応募した。



講演の内容をアピールするために幾人かの医師が分担して講演内容の説明書きを行い、八木淳子氏が、演題名をも含めて一般人に理解しやすいような表現へと修正した。講師の先生方の接遇は松浦美実子氏が担当し、宿泊手配と詳細な連絡を受け持った。

構想は立てられたものの予算の獲得は難航した。しかし、年末には、上野氏の積極的な働きかけにより広沢グループ会長広沢清氏の賛同が得られ、200万円相当のTシャツを寄付してもらえ、予算面に一条の光が見えてきた。その後、医療施設、製薬企業、医療機器メーカーを中心に協賛を募り、多くのご協力をいただけることとなった。その中には患者さんからの浄財もあった。

2005年となり患者の会からも参加を得た。くるみの会からは藤原登子氏、森の会からは山田陽子氏、あけぼの会からは茂木瑞子氏らが代表として委員に就任した。また、医療関係者として菅谷嘉恵子氏、平石恵美子氏、井上恭子氏、藤代典子氏、横田すい子氏が委員に就任し、参加した。

つくば国際会議場から連絡が入り、キャンセルがでたために大ホールでの講演が可能となり、メインの会場をつくば国際会議場に最終決定した。

フェスティバルの正式名称をPink Ribbon Festival in Tsukuba (つくばピンクリボンフェスティバル) とした。キャッチコピーとして「Know More 乳がん」が八木淳子氏から提案された。これは「No more 乳がん」との掛け合いになっており、それなりに面白い表現として好評であった。しかしながら、岡田益吉氏より下記のような指摘があった。

「Know More 乳がん」について。

これは、日英両国語を十分知っていて、寛容な精神を持つ方々が見れば、にやりと笑うと思います。洒落として面白いかもしれせん。しかし、英語だけの方達には一寸奇異かもしれせんし、日本語だけの方 (Know が Noに掛かっていることが分からない方) には分かりにくいです。受験英語から抜け切れていない人たちも一言あると思います。正しくは「Know more about 乳がん」ですが、これでは面白くないですね。

難しいところですが、

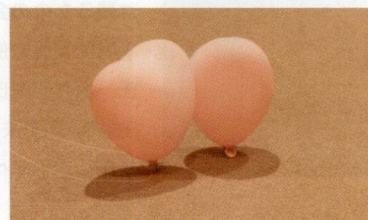
「Know More-乳がん」

「Know More・・・乳がん」

「Know More, 乳がん」

「Know More 乳がん」

など考えてみました。いずれも完璧というわけにはいきませんが、何とかごまかせるのではないのでしょうか。周子は2番目がよいのではないかと云っています。



さすがつくばならではのハイレベルな議論となり、私の頭の上で意見が飛び交っていた。どれがよいのか正しいのか私には分からない。次回の検討課題として残したい。

インターネットをも通じて活発な討論が行なわれ、最終的には無難な「Breast Cancer Awareness—乳がんを知ろう—」と決定した。ウォーク/ランはウォークのみに絞り、お昼のトークショーとして島田菜穂子氏による乳がんQ&Aが採用された。カンピドリオの会場の設定には石山マチ子氏が担当することになった。また、坪井光子氏の尽力により講演の間にピアニスト米元えり氏と泉對優子氏に演奏をしていただくことになった。テニスは原尚人氏が企画した。筑波学院大学にて開催することとし、島田菜穂子氏の紹介にて日本女子テニス連盟の協力が得られることになった。アトラクションとしてはバルーンパフォーマンスを取り入れることとし、上野修氏がこれを担当することとなった。

Pink Ribbon Festival in Tsukuba

検診は、プレストピア難波病院、茨城県メディカルセンター、筑波メディカルセンター・つくば総合健診センター、東京医大、日立メディカルセンター、取手北相馬保健医療センター医師会病院、茨城県総合健診協会らが協力して行なうこととなった。

“患者さんの会のコーナー”は患者自身が担当することになり、“患者の会のコーナー”とした。担当責任者は山田陽子氏が選ばれ、医療機器の展示をも企画することになった。

2月にポスター、パンフレットが完成し、より積極的に広報活動を展開した。坪井氏は常陽リビング、常陽ウィークリー、八木氏はつくば市広報とひばり、小田陽子氏は筑波大学新聞、乳癌学会評議員、春日氏はメディカルニュース、山田陽子氏はJ-COM、岡田周子氏と市川里美氏は公民館等の公共施設、各委員は商店街等にポスターの掲示を依頼するなど幅広く展開した（センタービル内のザ・ロックス、松庄花壇、クラモチ不動産、テイスティ 21、関彰グループのガソリンスタンド等々、快くポスターを掲示してくれた。）。また、田中佐代子氏が作成したパンフレットとデータを基に小田陽子氏がホームページを立ち上げた。立ち上げに際しては筑波大学医学情報基盤室の大神氏、情報工学システム学系の山川誠氏らの協力を得た。



講演会での挨拶は茨城県の出納長石川哲夫氏から、最後の謝辞は病院長山口巖氏からいただけることになった。

2月の極寒の時期ということもあって、筑波大学附属病院での夜の会合は寒く、第6回実行委員会からはつくば市民活動センターを利用することとなった。パンフレットの送付に際しては人海戦術を展開し、委員の皆様方のボランティア精神、犠牲的奉仕、また、乳腺外来の待ち時間を利用しての患者さんたちのセッティングにより、3000部のパンフレットを送付することができた。この間に乳がんのボランティア活動を聞きつけ、向井陽美氏、阿部聡子氏らが実行委員会入りした。



3月には、申込入金の流れの確認、検診での結果の通知、保険、人員配置、駐車場の確保等の詰めを行った。

山田陽子氏はテニスクリニックでの保険の方法などを指導した。上野氏は、トヨタ所有の空き地（竹園西小学校の南側）を駐車場として無償で借り受けることに成功した。この駐車場は当日の実行委員の足場として有効であった。つくば乳癌ネットワークを構成する各企業からは人的な提供があり、フェスティバル当日の打ち合わせを行なった。各企業のMR諸氏にはテントの設営、講演会場でのステージ管理に協力をいただいた。松浦美実子氏は受付の総責任者、文由美氏はステージマネージャー、小田氏がVIP接遇を努めることとなった。上野氏と小田氏との働きかけにより秀英高校からはテントが提供された。また、協賛金が徐々に集約され、出納バランスがプラスに転じたために予算の修正を行ない、乳がんQ&Aの会場設営費の増資、テニスクリニックにおける事故対策としての保険料、バルーンパフォーマンスの風船料、パンフレットの増刷代、コンサートのプログラムの印刷代、写真フィルム代などを追加した。上野氏は筑波大学体育学系講師の鍋山氏（国内ベスト8の剣士）にボランティアを依頼し、水泳部、柔道部からのボランティア要員を確保、また、ボーイスカウトにも依頼し、団委員長八城健章氏、副団委員長大野治夫氏らの協力を得た。更にはプロカメラマンの齊藤氏、芸術家の藤枝氏が応援に駆けつけることとなった。患者の会からのボランティアの募集も予定された。縦看板、垂れ幕は小田陽子氏の担当となった。

準備の整ったところで最後のアピール戦となった。常陽リビングからのインタビューは藤原氏、八木氏、植野で受けた。

25万部配布の威力は大きく、最も反響が大きかった。この内容は今でも常陽リビングのHPに掲載されている。記者からの要望にて少人数の会見となったが、これまで多くの方々の協力で成り立っているにもかかわらず、二人のみ大きく写真に載ってしまったのが申し訳ない。次のJ-COMの収録に際しては全員に呼びかけたもののこれも羞恥心からか山田氏、八木氏、植野の3人のみであった。常陽ウィークリーは外来でインタビューを受けた。写真の段階では、また一人になりそうであったため、後日の実行委員会の日に写真を撮るようにした。おりしもTシャツも完成し、皆とのいい記念写真になりうれしかった。





大会前日には、ブレストピア難波病院が宮崎県から検診バスを搬入し、無料で提供してくれた。八木淳子氏が綿密なロジブック(Logi Book)を作成し、フェスティバルに望んだ。



待ちに待った当日はやや肌寒く、桜の開花は間に合わず残念。まずは本部の設営から始まった。MR、体育学系学生が動員された。テントの設営は皆がはじめてとのこと、プラモデル作成のように試行錯誤の末完成した。あちらでは、バルーンパフォーマンスの風船の膨らましが始まり、こちらでは、看護師、技師のボランティアが集まり、自己検診の講演のリハーサルが行なわれていた。Tシャツは公式のもの以外に太田代紀子氏作品、石山マチ子氏作品も並べられた。

国際会議場には、乳房専用の検診バス7台が集結した。各施設の担当者、技師らがお互いに検診バス内を見学し、意見を交換するなど裨益するところ多々あったと思われる。検診に際しては、森島氏、鯨岡氏が采配を振るい滞りなく進められた。東京の多摩総合検診センターの菊池悟氏の応援もあった。

ウォークでは、東野英利子氏の挨拶から始まり、鍋倉賢治氏のワンポイントレッスンがコメントプラザにてあった。遠藤先生、沢井先生らも参加し、花を添えた。いい朝の運動だった。テニスクリニックは筑波学院大学で開催され、女子テニス連盟の指導、アメアスポーツの協力で華やかそう。



展示コーナーは患者の会がセットアップし、患者の会の紹介、医療機器・製品の展示があった。ボランティア、患者さんのみならず一般の参加者も多かったようである。

乳がんQ&Aでは、石山マチ子氏と坪井光子氏がカンピドリオのくぼみを会場として美しくセットアップした。トークは島田菜穂子氏の名司会にて和やかに進められた。参議院議員の足立信也氏も飛び入り参加した。なんといつてもつくば市健康増進課の野口嘉雄氏の参加が得られたのは大きかった。この方を無くしてはつくば市での検診は有り得ない。本会場において、乳がん検診に際しては抽選を行なうことなどはしないと説明して下さったのは有難い。そのほか千葉県から橋本秀行氏、本県からは緒方剛氏、一般市民代表として八木淳子氏が壇上に上がった。ランチはトークショーを聞きながらと思ったが意外と聴衆は少なく、また、ゲストを前にしての食事は憚られた。ランチョンセミナーの形式はなかなか難しい。

ピンクリボンバルーンは藤枝氏の設計により綺麗な形となり、風に靡いていたのは印象的であった。



講演会場の壇上の花の飾りつけは八木氏が指示した。なかなか豪華で栄えある会場となった。茨城県出納長石川哲夫氏の挨拶により講演会が始まった。お嬢様が乳がんを患い、その苦しみの内容がひしひしと伝わり開場が静まり返った。また、参議院議員足立信也氏からも貴重なお言葉を頂戴した。

講演会の演者の先生方は百戦錬磨の方々のためにその内容に聞きほれ、あっという間の時間だったように思う。司会も岡田氏や板橋氏のようなベテランの方以外も緊張することなくうまくリードされていた。コンサートも成功。

遠藤先生のお人柄なのだろう。告白を通じた質問が矢継ぎ早にあり、内容は受け止めなければならない、時間はないといった外来の心境であった。これほど苦しんでいる方々が多いのかという実感が伝わったことと思う。

私の講演では、小田陽子氏が英語の通訳を行なった。このようなHPがあるということは伝わったのだろうか。また、今のインターネットは自動翻訳も敷設されているので英語に堪能でなくとも情報が得られることをも知ってもらいたいと思う。



東野氏は画像を分かりやすく、太田代氏は二次検診のかかり方を懇切丁寧に説明した。植木氏の話には涙するところも多く実感のこもった内容であった。

最後に筑波大学医学専門学群学群長中山凱夫氏より総評と謝辞をいただいた。

講演会の途中には朝日新聞、NHKが取材に訪れたが、時間がとれず失礼してしまった。マスコミ対策も遠慮せずもう少し前もって積極的に用意してもよかったかもしれない。

Pink Ribbon Festival in Tsukuba



(最後の片付けは夜遅くまでご苦労様でした。あんなにもグッズを溜め込んでいたとは驚きでした。田中智さん最後までありがとうございました。上野先生、高級ペンツにゴミを詰め込んで申し訳ありませんでした。)

後日談ではあるが、南雲先生には目がハートになってしまった方が多かったようである。彼の口からは会場に一体感があつた素晴らしいとの評価があった。何遍でも呼んでほしいとのこと。

遠藤先生には講演料もお支払いせず申し訳ないと謝辞を述べたが、“これがいいですよ”とお言葉、感謝している。また、”一人ではなく、全員でこの企画をしていることが分かった。素晴らしい”とお褒めの言葉をいただいた。

福田先生、沢井先生からはあのバイタリティはすごい、勉強になったとの評価を受けた。

補足

講演会で受け付けた質問は、その次の週に電話にて回答した。

まとめ

- (1) ピンクリボンは登録商標ではなく、全世界の共通の言葉であることを学んだ。
- (2) 実質12月、1月、2月、3月の4ヶ月でこれだけのイベントを遂行できたのは驚異といわざるを得ない。つくば市ならびに近隣には有能な方が多くいるとの実感を得た。外部からもその評価が得られ、さすが学園都市の企画と絶賛されている。
- (3) 住民に対して“乳がんを知ろう”というキャンペーンで啓発をおこなったが、それ以前に市町村の行政において乳がんに対する理解が進んでいないことが明らかとなった。
- (4) つくば市は科学都市と謳われながら、福祉は決して先進していないことが分かった。
- (5) 各企業の乳がんへの関心が高いことが明らかとなった。
- (6) このイベントを通じていろんな方がお互いに友人となった喜びがある。今回の企画にはかなり精力を費やし、イグゾーストした方もいるかと思うが、これは、ほんの序の口と心を引き締めたい。この繋がりを通じて更なる活動の展開を願いたい。われわれの最終目標はなんといっても検診受診率60%以上そして乳がんの撲滅である。



おわりに

よきことはひとりで行なうことが多い。そのひとりひとりのよきことをあわせることにより更に大きなよきこととなる。

1+1=2ではない。1+1>2となる。みんなと心をあわせてよきことをしたい。





委員からの感想

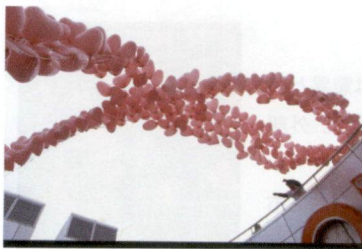
実行委員 岡田周子

手術後、病気の名前も口にしなくなかった15年前、気分転換をかねてスコットランドで開かれた集まりに参加した。自己紹介の中で "Breast Cancer" と言ってしまった。しかし、その言葉でたくさんの友人がとても優しく接してくれ、とても勇気づけて貰ったことを思い出した。今回の講演会での質疑応答は、あの時私が感じたのと同じ、優しさと励ましの空気に溢れていたからである。



講演会を聞きに来た人達の中には、病気への理解を深めたい人、自らが当事者あるいは経験者で仲間を求めて集まった人、色々のように感じたが、いずれの人達も、治療に携わる優れた医師達の豊富な知識の紹介などで十分満足したと感じた。

参加出来なかった友人に当日の様子を話したところ、DVD かテープでもあったら貸してもらえないかと頼まれた。良質の情報にはたくさんの人に伝えられるべきだと思うので、将来の問題として考えて下さるよう希望したい。



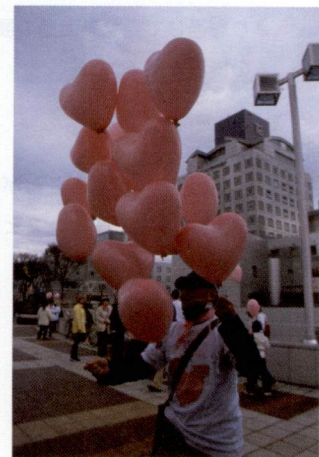
あの日の音楽会は気分転換にはなったが、第2部を前に去って行く人が多く、惜しまれた。

屋外でのクイズ形式の Q & A も面白かった。一般聴衆の病気への関心と知識が高まれば、聴衆にも回答者になってもらい、寄付された景品の数々が役立ったのではないかと思えた。そのためにもピンクリボンの運動は今後も継続され、つくば市のみならず茨城県民の文化の向上につながって欲しいと願っている。

会計収支

<収入>	5,315,640
参加費	772,640
協賛費	4,543,000
<支出>	3,038,920
事務局運営費	288,955
印刷物	539,635
大会設営関連	266,184
講師関係	529,763
広告宣伝費	121,630
サブイベント	549,699
会場使用料	743,054

残高 2,276,270円



参加者数



総数：736名 (大人695名 高校生以下41名)

各イベント参加者数
 講演：518名
 検診：86名
 ウォーク：196名
 テニスクリニック：46名

講演 乳がんを知ろう

小さい頃からの習慣も大事 —子供を乳がんさせないために—
富永祐民 愛知県健康づくり振興事業団健康科学総合センター



いったい乳がんってどれぐらいの人がなっているの？—交通事故より危険が高い乳がん—
遠藤登喜子 名古屋医療センター放射線部

なんかしこりがあるような、、、—症状があれば保険診療、なければ検診—
福田護 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科



でもしこりってどうやって見つけるの？—乳がんを自分でみつけるには—
植野映 筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科

検査ってどんなことをするの？なんか痛そう。—乳がん検診の方法—
東野英利子 筑波大学放射線科



ピアノ演奏

わっ、検査でひっかかった、、、、—精密検査の必要ありといわれたら—
太田代紀子 おおたしるクリニック

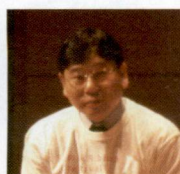
見つける時期によってこんなに違うの！—早期乳癌と進行乳癌の治療法とお値段—
沢井清司 京都府立大学内分泌乳腺外科



たとえ、失っても大丈夫。—あなたの乳房を美しくします—
南雲吉則 ナグモクリニック

まさか再発するなんて、、、—再発乳がんを治す—
佐伯俊昭 埼玉医科大学乳腺科

愛する人が乳がん、、、、—パートナー（夫・恋人）のあり方—
植木浜一 水戸医療センター





主催・共催・後援・協賛

主催 つくばピンクリボン実行委員会

共催 茨城県

茨城県医師会

茨城乳腺疾患研究会

筑波学院大学

つくば市

筑波大学

乳房健康研究会

後援 牛尾病院

つくば乳癌ネットワーク

つくば保健所

協賛 アストラゼネカ株式会社

アックアセレーナ

アベンティスグループアベンティスファーマ（株）

アメアスポーツジャパン株式会社

アロカ

アロカ株式会社 水戸支店

社団法人 茨城県医師会

茨城県総合健診協会

茨城トヨタ

茨城県メディカルセンター

エイボンプロダクツ（株）フロンティアディビジョン

エステローダ株式会社

NJ テニスクラブ

医療法人 おおたしろクリニック

協和発酵工業（株）

くるみの会

KG 竹園クリニック

医療法人弘仁会 志村病院

医療法人この実会 嶋崎病院

コダック

コニカミノルタエムジー株式会社

サッポロ飲料株式会社

GE 横河メディカルシステムズ株式会社

NPO 法人 J-POSH

塩野義製薬

城南企業株式会社

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

株式会社 スヴェンソン

関彰商事株式会社

大鵬薬品工業株式会社千葉支店

中外製薬株式会社つくば出張所

つくば学園ロータリークラブ



Pink Ribbon Festival in Tsukuba



- 協賛
- 筑波記念病院・トータルヘルスプラザ
 - つくば秀英高校
 - 筑波大学附属病院
 - つくばボーイスカウト
 - 財団法人筑波メディカルセンター・つくば総合健診センター
 - 土浦都市開発株式会社
 - 取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院
 - 日本化薬株式会社水戸営業所
 - 日本女子テニス連盟
 - ノバルティスファーマ（株）
 - 日立メディカルセンター
 - 日立メディコ
 - 広沢グループ
 - ピンクリボンクラブひたち
 - ファイザー
 - プリストルマイヤーズ
 - プレストピアなんば病院
 - 森の会
 - ユコー株式会社
 - 医療法人竜仁会 牛尾病院
 - (株)ワコール リマンマ課



実行委員

- | | | |
|-------|-------|------------------------------|
| 実行委員長 | 植野 映 | 筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科 |
| 副委員長 | 東野英利子 | 筑波大学臨床医学系放射線科 |
| | 青山 充 | 茨城県保健福祉部保健予防課 |
| | 浅越辰男 | 茨城西南医療センター病院外科 |
| | 阿部聡子 | 医療法人社団創造会 平和台病院 |
| | 石川智義 | 筑波学園病院 |
| | 板橋正幸 | 茨城県立中央病院・地域がんセンター-病理科 |
| | 石山マチ子 | Boutique Yellow Tree Machiko |
| | 市川里美 | 筑波大学附属病院検査部 |
| | 伊藤吾子 | 日立製作所日立総合病院外科 |
| | 井上恭子 | 筑波大学附属病院930病棟 |
| | 植木浜一 | 水戸医療センター外科 |
| | 上野 修 | 上野歯科医院 |
| | 植野芙英 | 自治医科大学附属病院外科 |
| | 牛尾浩樹 | 牛尾病院 |
| | 漆原 徹 | 筑波病院 |
| | 大関雄一郎 | 東京医大霞ヶ浦病院 外科 |
| | 太田代紀子 | おたしろクリニック |
| | 岡田周子 | 主婦 |
| | 緒方 剛 | つくば市保健所 |



Pink Ribbon Festival in Tsukuba



- | | |
|-------|------------------------------|
| 岡田益吉 | (財)国際高等研究所 |
| 奥村 稔 | 日立総合病院外科 |
| 小田陽子 | 筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科 |
| 小野幸雄 | つくば総合健診センター |
| 甲斐美津江 | 東京医大霞ヶ浦病院放射線部 |
| 春日晴夫 | (財)茨城県メディカルセンター |
| 川口広子 | 筑波大学附属病院730病棟 |
| 鯨岡結賀 | 筑波記念病院放射線科 |
| 小関暎子 | 筑波記念病院トータルヘルスプラザ |
| 齋藤洋子 | (財)茨城県総合健診協会 |
| 坂井朋夫 | 東京医大霞ヶ浦病院放射線部 |
| サンギータ | 筑波大学臨床医学系放射線科 |
| 椎名 毅 | 筑波大学大学院システム情報工学研究科 |
| 篠原 照彦 | (財)茨城県メディカルセンター |
| 島田菜穂子 | 東京通信病院放射線科医長 |
| 菅谷嘉恵子 | 筑波大学附属病院外来 |
| 助川みや子 | 筑波大学附属病院901病棟 |
| 鈴木君江 | 筑波大学附属病院 |
| 鈴木武樹 | 取手北相馬保健医療センター医師会病院 |
| 田中佐代子 | 筑波大学芸術学系視覚情報デザイン科 |
| 辻真理子 | きぬ医師会病院麻酔科 |
| 角田博子 | 聖路加国際病院放射線科 |
| 坪井光子 | アルスホール ミュージアムショップ |
| 鍋倉賢治 | 筑波大学体育センター |
| 難波滋子 | プレストピアなんば病院 |
| 西村 基 | 筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科 |
| 野口嘉雄 | つくば市健康増進課 |
| 萩谷雅智 | 茨城県保健福祉部保健予防課 |
| 橋本秀行 | ちば県民保健予防財団がん検診センター |
| 長谷川玲子 | タッチ体操クラブ |
| 長谷川聖修 | 筑波大学体育学系 |
| 原 尚人 | 筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科 |
| 藤代典子 | 筑波大学附属病院検査部 |
| 藤原登子 | くるみの会 |
| 松浦芙実子 | 筑波大学臨床医学系腺外形成外科 |
| 間中研子 | 筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科 |
| 光畑桂子 | つくば総合健診センター |
| 向井陽美 | 筑波大学先端学際領域研究センター (TARA センター) |
| 文 由美 | つくばセントラル病院 |
| 茂木瑞子 | あけぼの会(くるみの会) |
| 森島 勇 | 筑波メディカルセンター病院乳腺甲状腺外科 |
| 八木淳子 | |
| 山口 巖 | 筑波大学附属病院 |
| 山田陽子 | 森の会 筑波メディカルピンクリボンの会 |
| 横田すい子 | 筑波大学附属病院730病棟 |

